

南城市の学校現場におけるコミュニティバス学習の展開に向けて

(8月28日資料)

名桜大学 寺本 潔

●バスそのものへの愛着の強化を

Nバスを自分の市（市民意識の啓発のためにも）のバスとの意味付けをさらに強化したい。そのための方策としては・・・Nバスの機能理解・なんじーキャラクターとNバス（例：なんじーの乗り物としての意味付け）・Nバス飾りつけ・Nバスソング・Nバス写生会・Nバスのある生活をモチーフにした俳句等。

●モビリティ・マネジメント（MM）教育でもたらされる学びとは

公共交通としての役割理解 CO2 排出削減への役割 渋滞の低減 安心安全な乗り物、快適な室内環境（高い座席からの眺め、空調、乗り合わせた市民同士の談話）、交通に携わる人の仕事理解・ハート形の南城市をめぐる心温まるバス・・・

●Nバスを利用して目的地に行く例示を増やす

Nバスと目的地をつなげる意味の顕在化（知念岬の絶景を堪能するために乗る・ゆいんちホテルの温泉に行くために乗る・市役所行き・東御廻りの観光スポットめぐり等）さらに、子ども自身が自分の力でバスを利活用できるとの有能感も育てたい

南城市議会場で市民や観光客への利活用促進につながる提案（プレゼン）を地元の中学生や小学生高学年の探究学習として実現できないか

●小中学校のいずれかの学年においてNバスが題材で登場する小単元の明示を

社会科、総合、生活、音楽、家庭、図工、理科

先進地である富山市の乗り物語り教育（交通課と教育委員会の連携・乗り物語りというネーミングはかつて寺本が指導していた時に案出した）からの示唆を得る必要がある

個別最適な学びと協働的な学びの充実に公共交通の題材を取り入れていく

●不在となったNバスコンシェルジュの代わりに、子どもNバスコンシェルジュを組織できないか

夏休みや春休み期間中だけの数日間の体験活動でもよい 子どもが参画する公共交通政策は子どもの成長に大きく寄与する